

平成31年新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は、市政の発展に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

本年も、東温市が将来にわたり発展し続けられるよう全力でまちづくりを進めてまいりますのでよろしくお願いたします。

昨年を振り返りますと、県内でも南予地域を中心に甚大な被害をもたらしました7月の西日本豪雨、局地的豪雨や異常進路の台風に加え、地震など、予測困難な大規模自然災害が全国で多く発生いたしました。

本市におきましては、幸いにも人的被害はありませんでしたが、被災した

農林業及び公共土木施設等の災害復旧に取り組むとともに、微力ではありますが、「オール愛媛」の一員として、南予の被災自治体等の復旧・復興支援への協力を進めております。

昨年は、改めて自然の脅威、そして、防災・減災対策の大切さを痛感すると同時に、一連の災害を教訓に、それぞれの地域や団体においても防災意識の高まりをはっきりと感じ取れた一年でした。

今後も、「災害に強い安全・安心のまちづくり」に向けて、防災・減災対策に全力で取り組むとともに、市民の皆様への防災意識の向上と地域防災力の強化のサポートに努めてまいりますので、市民の皆様におかれましては、「自助」「共助」の観点から、個人や家族でできる防災・減災対策の推進並びに地域自主防災組織の一層の強化にご協力いただきますようお願い申し上げます。

さて、昨年4月に総務省から公表された人口推計によりますと、日本の総人口は1億2,670万人で、前年に比べ22万7千人(0.18%)減少し、7年連続の減少となっております。

総人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は27.7%で過去最高を記録し、日本の高齢化は、世界的に見ても空前の速度と規模で進行しております。

本市におきましては、昨年4月1日現在の人口が3万3,546人となり、前年に比べ50人増加したものの、65歳以上の割合は29.7%と、1.86%増加するなど、今後も少子高齢化の進行は避けられない状況となっております。

こうした中、ある程度人口が減少しても耐えていける地域社会づくりや人口減少のスピードを緩やかに保つため、平成27年に策定した「東温市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、本年も引き続き、「元氣な東温市」を将来にわたって維持していくための各種施策に取り組んでまいります。

その主なものとして、昨年、本市独自の魅力あるまちづくりを目指して整備した「東温アートヴィレッジセンター」や「東温市さくらの湯観光物産センター」など、市内の様々な地域資源を活用することで、「新たな人の流れ」

や「しごと」の創出」を目指した取り組みの更なる充実・強化を図ってまいります。

また、近年の異常な酷暑を受け、子どもたちの学習環境改善のため、小・中学校をはじめ、幼稚園や保育所に空調設備を整備するとともに、危険なブロック塀の安全対策を実施するなど、教育・保育環境の改善・向上を図ってまいります。

そのほか、3年目を迎えましたタウンミーティングの開催による「市民の皆様」の声を大切にする「まちづくり」をはじめ、本年から本格的に始まる東温スマートインターチェンジ(仮称)の整備と、これに関連する新たな工業団地の造成による「安定した雇用の環境づくり」、保健・介護・福祉・教育の拠点施設としての総合保健福祉センター(仮称)の建設による「健康福祉のまちづくり」など、引き続き、各種政策・施策を積極的に推進し、市政の発展に全力で取り組んでまいります。

本年が、市民の皆様にとりまして、「温か笑顔の東温市」として素晴らしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

東温市長

加藤 章

